

平成26年8月21日

上田市教育委員会
教育委員長 城下 敦子 様

上田市社会教育委員
代表 安井 幸次

提 言 書
～学社連携の推進と土曜日の教育活動の推進について～

上田市社会教育委員においては、今までにも、第二期上田市社会教育委員（任期：平成20年9月～22年8月）が、教育委員会の諮問に基づき、「上田市の生涯学習推進のための方策について」答申（平成22年8月31日付）を行い、「今後上田市の生涯学習推進のためには、学社連携が不可欠である」旨、特に重点的に述べさせていただきました。

第三期上田市社会教育委員（任期：平成22年9月～24年8月）においても、「地域が学校を支える仕組みづくりの推進について」提言（平成24年8月23日付）を行い、「学社連携の推進とキャリア教育の推進」について述べさせていただきました。

長野県におきましては、昨年度から始まった長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン」（計画期間：平成25年度～29年度）及びその教育分野における個別計画である「第2次長野県教育振興基本計画」（計画期間：平成25年度～29年度）において、家庭や地域が小・中学校を支える仕組みを構築し、地域に開かれた信頼される学校づくりを進めることを打ち出し、「信州型コミュニティ・スクール」（保護者・地域による学校支援や学校運営参画の仕組みができている小・中学校）の実施割合を平成29年度に100%にするとの達成目標を盛り込んでおります。

また、国におきましては、学校、家庭、地域の三者が連携し、役割分担しながら、学校における授業、地域における多様な学習や体験活動の機会の充実などに取り組むことにより、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現する「土曜日の教育活動推進プラン」を進めていくこととしています。

こうした動きが進む中で、第四期の現上田市社会教育委員においても、県外の先進地視察やコーディネーター養成講座などの研修参加、学社連携連絡会や学社融合フォーラム等の参加、公民館長との懇談会などを通じ、地域が学校を支える仕組みづくりの推進に向けて課題の検討を進めてまいりましたが、学社連携を進めるに当たっては、地域が学校を支える仕組みづくりが急務であることを改めて認識いたしました。

上田市においては、平成20年度から始まった塩田中学校における学校支援地域本部事業による「しおだっ子応援団」を皮切りに、平成24年度以降、第三中学校、西小学校、真田地域内小学校など、徐々にではありますが地域による学校支援が着実に拡大してきているとお聞きしております。コミュニティ・スクールについても、平成23年度に市内で初めて浦里小学校が指定され、今年度新たに川西小学校が指定されました。また、市内全ての学校が地域の教育力を活用した事業を実施してきております。

以上を踏まえ、学校だけが子どもの教育の役割と責任を負うのではなく、学校・家庭・地域がさらに一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる学社連携事業を、地域や学校の実情に合わせながら、できるところから学校の要望に応じた取組みの拡大を図り、最終的には全市域に拡大するよう、下記のとおり提言いたします。

記

1 学社連携の推進について

(1) 事業推進に向けた学校への働きかけと学校支援ボランティアの育成について

学校への働きかけと合わせ、学社融合の重要性を地域住民に周知し、学校支援に意欲を持っている人材を地域で発掘するとともに、必要に応じて公民館において学校支援のための講座を開催するなど、ボランティアの育成を図っていく必要があります。

また、学校支援が長期になってくるとボランティアが減少傾向となることから、地域住民が主体的かつ継続的にボランティアに参加できるよう、その支援も含めて組織の活性化を図っていく必要があります。

ア 地域とともにある学校づくり（学社連携事業の推進）に向けた学校への働きかけ
地域住民による学校支援がもたらす様々な成果が言われる中で、学校側に地域で学校を支援することが可能であることを伝え、それにより、どんな効果もたらされるのか、教職員が学社連携の推進から得られる良さを実感し、事業の推進意欲が高まるよう、学校側に働きかけて実際に取り組んでいる学校の現場を見てもらうなど、様々な成功事例の紹介などを通じ、教職員の理解を高めていくことを望みます。

イ 地域住民への周知と意識の高揚

地域住民による学校支援が、一過性または膠着したものにならないために、なぜ学校支援が必要なのか、どんな効果もたらされるのかといったことの周知や事業の成果をわかりやすく伝えていくことを通じて、地域住民の理解を深め、地域が学校とともに子育てをしていくという意識に立った支援体制の構築に向け、引き続き地域住民の意識の高揚を図っていくことを望みます。

ウ 地域と学校の情報の共有及び信頼関係の構築

川西公民館では、地域内の小・中学校との「学社連携・融合連絡会」を開催し、情報交換の場を設けているとお聞きしておりますが、このような事例も参考にする中で、地域に対し学校がどのような支援を望むのか学校の要望を把握するため、学校側が公民館に気軽に相談できる体制を構築するとともに、地域・学校・公民館など関係者を含めた話し合いの場を設けることにより、それぞれの情報を共有し、こうした機会を通じて信頼関係の構築を図ることを希望します。

エ 学校支援ボランティアの育成

(ア) 前述のような機会を通じ、公民館は、各学校が求めている支援の把握に努め、社会福祉協議会などとも連携し、学校支援に意欲を持っている人材を地域において発掘するとともに、必要に応じて「学校支援ボランティア講座」を開催し、ボラ

ンティアの発掘と拡充、人材の育成を推進することを希望します。

- (1) 長野県生涯学習推進センターが主催する学社連携推進講座などの研修講座への参加や先進地視察などを通じ、ボランティア育成の推進を図ることを望みます。

オ 学校支援ボランティアの情報交換及び交流機会の確保

地域による学校支援が拡大してきている中で、他の学校の状況を今後の活動に反映させ、よりよい活動にしていくため、上田市におけるボランティアが情報交換を行い、交流する機会を設けることを希望します。

(2) 地域コーディネーターの育成と配置について

学校が地域の外部講師やボランティアを導入する等、地域とのかかわりを深めることにより実施できる事業を推進する際に必要とされるのが、学校と地域の両方の情報を持ち、互いの要求を調整する機能をもつ地域コーディネーターの存在です。

例えば、塩田中学校では「しおだっこ応援団」と塩田公民館職員がその役割を果たしています。また、武石小学校ではコーディネーター役を地域住民が個人で担っている事例があります。

また、学校支援の取組みを持続的かつ自立的な活動として進めていくためには、学校が求めている支援を的確に把握し、学校の実情に合わせ、できる支援をできるところから地域ぐるみで行っていくことが大切であると考えますが、そのキーパーソンとなる地域コーディネーターの育成を図るとともに、コーディネーターの研修機会などを設ける必要があります。

ア 地域コーディネーターの育成

(ア) 基本的には、公民館職員が地域コーディネーターの役割を果たすことを望みます。

- (1) 公民館職員以外の地域コーディネーターとしては、学校評議員やPTA会長OB、育成会長等がその任に当たることが考えられますが、公民館が組織的にその育成や人材発掘に努めることを求めます。

- (ウ) 長野県生涯学習推進センターが主催するコーディネーター・スキルアップ研修講座への参加や先進地視察などを通じ、コーディネーター育成の推進を図ることを望みます。

イ 地域コーディネーターの配置

地域コーディネーターは公民館又は学校に置き、その区域内の小中学校、又は所属する学校を担当することにより、学校を支援する体制を構築することを希望します。

ウ 地域コーディネーターの情報交換及び交流機会の確保

地域による学校支援が拡大してきている中で、他の学校の状況を今後の活動に反映させ、よりよい活動にしていくため、ボランティア同様、上田市におけるコーディネーターが情報交換を行い、交流する機会を設けることを希望します。

エ 公民館職員体制への配慮

地域ぐるみで子どもを育てる学社連携事業を全市域に拡大していくには、将来的に地域コーディネーターが全ての小中学校ごとに配置されるのが理想ではありますが、当面その役割を公民館職員が果たすに当たり、一人の職員が複数の学校を担っていかざるを得ない現状であることから、公民館における職員体制等の配慮を希望します。

2 土曜日の教育活動の推進について

学校週5日制が完全実施されてから10年余りが経過し、各地域で休日の様々な活動が行われておりますが、土曜日に様々な経験を積んでいる子どもたちが存在する一方で、必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちもいることから、学校、家庭、地域が連携し、役割分担しながら、学校における授業、地域における多様な学習や体験活動の機会の充実などに取り組むことにより、土曜日の教育環境を豊かなものにしていく必要があります。

こうした中で、大分県豊後高田市では、平成14年度から教育委員会が、市内在住の園児・児童・生徒を対象に「学びの21世紀塾」を開塾し、「いきいき土曜日事業」での寺子屋講座やテレビ寺子屋講座、各地区公民館が実施する「わくわく体験活動事業」での体験活動教室、「のびのび放課後活動事業」でのスポーツ教室等、様々なプログラムを提供しています。

また、今年3月に社会教育委員研修で視察した木更津市においては、学校週5日制を契機として、放課後や週末に、子どもたちが自由に集まり安全で安心して遊び学べる場を作り、また、その活動を手助けするためのアフタースクールボランティアを養成するとともに、公民館事業として、週末や夏休みを利用して、家庭や学校では普段経験することができない体験学習やものづくり、野外活動やスポーツ等、多様な活動機会を提供する「サタデースクール事業」が行われています。

ア 土曜学習事業の推進

上田市においても、上野が丘公民館における「夏休み上野が丘わいわい塾」など、既に各公民館において土曜学習事業に該当する事業が行われておりますが、子ども会育成連絡協議会や青少年育成推進指導員など、地域との連携を図る中で、「地域の子どもは地域で育てる」との方針のもと、各公民館や児童館、放課後児童クラブ等において土曜学習事業を推進することを希望します。

イ 地域住民の参画促進

事業の推進に当たっては、日頃は仕事等で忙しく参加が難しい保護者をはじめとする現役の社会人であっても、土曜日であれば休日となる方が多く、事業に参画することが可能であることから、地域の歴史や文化等に詳しい方や、スポーツ指導者、多様な職業経験を持った方など、現在でも様々な学校支援に協力いただいている地域の方々に加え、現役の社会人など、多様な人材が事業に参画する仕組みづくりを進めることを希望します。